

ウィトゲンシュタイン・文法・神

アラン・キートリー「著」

星川啓慈「訳」

《法蔵館文庫》

文庫判・並製カバー・二九三頁・本体一、二〇〇円＋税

2022年1月刊行

ウィトゲンシュタイン・文法・神

Wittgenstein, Grammar, and God
アラン・キートリー 著
星川啓慈 訳



法蔵館文庫

「あるものがいかなる種類の対象であるかは、文法が語る。(文法としての神学)」。

『哲学探究』のなかで、ウィトゲンシュタインがかく述べた「文法」概念を宗教研究に応用し、宗教言語の本質を、神などの超越的なものを「指示する」ことではなく、人間の内なるものを「表出する」こととして捉え、自然主義・相対主義・還元主義をのりこえる視点を提供。そして「本物の宗教」に迫らんとする、宗教哲学の好著。

訳者まえがき
緒言

序章 狂ったハエにたいする
ウィトゲンシュタインの忠告

第一章

- 宗教的信念と
ウィトゲンシュタインの哲学
- 1 ウィトゲンシュタインの
前期哲学と後期哲学
- 2 前期哲学における宗教
——「神秘的なるもの」
および超越的価値——
- 3 後期哲学における宗教
——生活形式と言語ゲーム——

第四章

- 3 宗教的「像」の真理
- 4 神の存在と本物の宗教の存在
- 5 何ものにも依存しない神の存在
- 6 本物の宗教
- 7 死と永遠の生

葛藤の系統化

- 1 宗教的信念は独特なものか
- 2 唯一の存在という概念は
存在するか
- 3 相対主義がはらむ問題

第五章

還元主義という問題

第六章

- 言語における可能性
- 1 言語における可能性
- 2 言語を超える事実
- 3 緊張関係にある二つの立場
——根拠をめぐる論争——

第二章

- 文法と宗教的信念の意味
- 1 ウィトゲンシュタインの
宗教にたいする直接の言及
- 2 前期と後期の宗教観
——言語の周縁に向かう衝動と
内的限界への侵入——

第三章

- ウィトゲンシュタイン学派の新展開
- 1 哲学と宗教
- 2 生活形式と言語ゲーム

- 原註
- 訳註
- 訳者あとがき
- 文庫版へのあとがき
- 結語

【著者略歴】1944年、英国ウェスト・ミッドランド生まれ。英国鉄道に8年間勤務した後、ウェスリー神学学校、ブリストル大学に学び、1971年卒業。その後、パーミンガム大学のジョン・ヒックのもとで研究を続け、1974年に博士号を取得。キング・エドワード6世カレッジなどで、宗教学・神学を教える。著書に、*Rligion and the Great Fallacy* (New Horaizon, 1983), *Into Every Life a Little Zen Must Fall* (Wisdom Publications, 1988) などがある。

【訳者略歴】1956年、愛媛県生まれ。1984年、筑波大学大学院哲学・思想研究科博士課程単位取得退学。現在、大正大学文学部教授。博士(文学)。専門は、宗教学・宗教哲学。主な著書に、『言語ゲームとしての宗教』(勁草書房, 1997), 『宗教と〈他〉なるもの』(春秋社, 2011), 『宗教哲学論考』(明石書店, 2017), 『増補 宗教者ウィトゲンシュタイン』(法蔵館, 2020) など。訳書として、M・シュタウディグル編『シュッツと宗教現象学』(明石書店, 2021) など。1990年、「日本宗教学会賞」受賞。

ご注文は FAX:075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

哲学

注文書	
(書店名)	
ご担当	
様冊	
法蔵館	
一、二〇〇円＋税	
A・キートリー 著、星川啓慈 訳	
ウィトゲンシュタイン・文法・神	
ISBN978-4-8318-2631-2 C0111	
お名前	ご住所
お電話	